神宮教院大成目次

三條演義……一
十一兼題聽記……二
十一兼題私記……五七
大教院兼題 十一說解義……七三
神教要旨……八三
神教要旨略解……八五
教會大意……九三
教會要旨……九七
神教綱領……一〇七
神教綱領演義……一一
神典採要……一二五
神典採要通解……一三五

序……一三五
神典採要例言五則……一三六
卷之一……一三九
卷之二……一五三
卷之三……一六九
卷之四……一八五

神判記實

序……二〇一

初編

目錄……二〇三
河內國の速雄といふ男が神の道を信ぜず神を穢し奉りて嚴罰を蒙りし話……二〇三
諏訪の國の男が神の道を妄に解きて罰を蒙り更に行ひを改めて長壽を得たる話……二〇五
大和國の別廣石が繼母の罪を贖ひしに依て其母天上に復歸し永く樂しき身となり得たる話……二〇六
三嶋の時彦が神を敬ひ祓詞を唱へて亡母の罪を贖ひ自ら二十年の齡を延し話……二〇八
伊勢國のたぎみといふ女が孝養の爲神に願言して其社の神祇の賞罰を談じ給ふを聞て自らも幸福を蒙りし話……二〇九
清見幸麻呂といふ男が神道の奧義を得て天上の福祉を蒙りし話……二一三

平安の京の人が隱惡の報いにて失ひし娘の告に依て行ひを改め再び娘を生み得たる話……二二
信濃國の國守といふ人の妻が其姑に善仕へたる德によりて雷の難を免て幸福を蒙りし話……二四
檜垣の本麻呂といふ男が神魂天上に復歸するの理を覺りて終に其實を得て永く樂しき身となりし話……二六
大和國の西部鰭が弟をよく養ひて神のめぐみを蒙りし話……二七
都の橘の長者が女情死して陸奥國の朽男が家に再生したるはまぎといふ女の神界のありさまを語りし話……二九

二編

目錄……三一

近江國鏡の驛長の婢女吳といふ女が誠心をもて神に祈りて冤を免がれし話……三三
浪速の人烏飼の清人が平生の行ひ正しきによりて其子浪麿が神教を受來し話……三五
大和國五條の少女が孝心にて父母の罪を犯して死せし原由を神の教へ給ふ話……三七
伊勢國度會郡の武長が孝行の德によりて父武麻呂が神罰を免がれし話……三〇
度會常昌神主の誠敬によりて眞幽顯の三界あるを神の示し給ふ話……三三
豐原國久が敬神の念ふかきによりて生ながら神界を拜見せし話……三四
中守國足が敬神の至誠によりて幽政の深義を神の示し給へる話……三五
攝津國の民藤次が產土神に祈りて死ぬべき子の命を助けて亡父の神罰をも免れしめたる話……三七

三編

目錄……三八

松木白大夫が神等の往來ひ給ふ大空の道を見ることを得て人の吉凶を知れる話……三九
香西太郎が妻の孝女を救ひ得たる德に由て夫及び子の大厄を免れしめたる話……四一
三河國碧海郡の人室三郎室國常がために冥福を祈りて罪惡を消したる話……四五
紀伊國熊野の岩松が祓の德によりて危難を免れたる話……四七
長野正家が官軍に在て打死し神魂の社に仕へて人の吉凶を定むる神になれる話……四八
跡部六郎が先祖の祭を厚くなし、より貧苦を脫れし話……四九
藤原常時が神典を燒却するを事として神罰を得たる話……五〇
伊勢の人某が八幡の宮に詣で若人の兄なる者母と祖母との罪によりて病を得たるむねを語りし話……五三
狂女夫の祟を蒙れる由來を語り苦みて死せる話……五四
高境孫久が顯身ながら杵築宮に事執り給ふ神政の旨を拜み奉れる話……五五

四編

目錄……五八

備前國の安倍鷹守が唐の張巡を天神の御もとに向へ給へるを拜みたる話……五九
祭主三位親章卿常に幽界の神事を伺ひ死後大神宮に仕へ奉りし話……六一

參河國人雀部左衞門が幽界の神政を伺ひ得て年比の疑念を散じたる話……二六三
和泉國人某が神の教を守りて父の病を治したる旨を語りたる話……二六五
遠江の國人越國益が神の道を過り信じて神罰を蒙りたる話……二六六
京に專といへる嫗ありて祓の詞の德によりて產婦の苦しみを救ひたる話……二六九
下總國衞門太郎といふ人伊勢の大神宮に參詣る道にて神德によりて危難を免れたる話……二七〇
甲斐國の源內が神等の早太が火の災を免れしめ給ふ旨を語り給ふを聞得たる話……二七二
近江の水口の驛なる辻三郎が產土神の神罰を蒙り行ひをあらためたる話……二七三
大和國飛鳥里の少女さとが誠心によりて弟の病を愈し長谷里の時次がこゝろを改めたる話……二七五

五編

目錄……二七九

武藏國多摩郡なる藤藏が再生して六とせ幽冥にありたるよしを語れる話……二八〇
參河國の太良三郎と稱へる男が主人の妾をあざむきて毒害をなしたる報を得たる話……二八四
駿河の庵原の翁が德行の篤きより親族みな天上に復歸する事を得たる話……二八六
竹村亙といへる男が年頃神明の有無をうたがひ終に出雲の大神の神罰を蒙りて死せる話……二八八
今清明が人を僞り神の道を稱へて夫婦天雷にうたれて死せる話……二九〇
吉見久國神の示諭によりて神道の正理を得たる話……二九二
相模國小田原の小夜が貞操の行ひによりて深き神德を蒙りたる話……二九三
播磨國加古郡の里人大麻の御德によりて疫癘を免がれ近鄕の風俗さへ正しくなれる話……二九六
淸海諸貞といへるが神德を輕蔑て出雲の大神の神罰を蒙りたる話……二九七
和泉國堺なる富野喜三が神の慈諭を悟りて孝子となれる話……二九九

六編

目錄……三〇三

冠者丑之助が鎭守神の御言葉によりて金刀比羅神の神罰をまぬかれたる話……三〇三
枡屋喜八といへる男が往事の惡報に因り妻子三人死たりし話……三〇五
美濃國の善人と稱ひたる翁が幼き時出雲にいたりて幽冥の有樣を拜みたる話……三〇七
乞食の拾へる黃金を返し再生せる事の由を告げたる話……三〇九
攝津國のそよと云る寡婦が產土神の神德に因て邪物の害を免れ歸り來れる話……三一一
藤原重澄が氏神稻荷の御前に仕へざるを以て度々除目に漏れたりし話……三一三
菅原の神の孝養の德をめで給ふによりて斬らるべき罪を免れたる話……三一三

近江國の吉次といへる翁が誠心によりて豫て神界の樂を得べき旨を告たりし話……三二四
都の媼が神の道をあやまり信じて邪魅の群にいらむとなしつる話……三二五
飛驒國の某が本居神社の土砂を持ちたるによりて大蛇の難を免れたる話……三二七

編

目錄

筑前國那珂郡なる左内といへる翁の靈のかへり來て孫女にかゝり幽冥のさまを語りたる話……三二九
伊勢國多氣の三藏といへる不孝の男が父母の靈を罵りて罰をうけたる話……三三〇
宋國の李浩といへる幼童が再生して幽界の事を語れる話……三三三
大和國の寡婦時女が善く心あしき繼子をはぐゝみて其志を正しくなさしめたる話……三三五
難波の松村といへる里のをとこが異人に聲をかられ產土神に祈請せむとせしを異人のわびたる話……三三八
近江の善九郎といへる男が神の御守によりて邪魅の害を免れたる話……三三九
山城國の市田といへる所の孝子ときが蘇生りて幽世のさまを語りたる話……三四〇
馬允守光が常に母を罵りて神罰をかうふりて死せる話……三四三
常陸國なる小冠者遠丸が誠心によりて危難を免れ神の冥助を蒙りたる話……三四四
筑前國筵田の驛なる男が惡事の報によりて神罰を蒙りて行をあらためたる話……三四六

編

目錄

神明の幽護によりて朝敵のすみやかに滅亡せられたる話……三四八
寶永二年といふ年の春より秋かけて伊勢に詣る人の種々の神德を蒙りたる話……三四九
明和八年といふとしの春秋かけて有つる神異の話……三五〇
文政十三年といへるとしくさ〴〵有たる中にすぐれて尊かりし神德の話……三五一
上總國天羽郡の男が神明の幽護によりて疫癘の害を免かれたる話……三五四
信濃國岩田村なる旅亭の主人が神罰に由て子を失ひそれがために犯せる罪のあらはれたる話……三五四
平安の市若といへる奴僕の陰惡の報に由て神罰を蒙りたる話……三五五

編

目錄

武藏國荏原郡矢口の渡にて江戸遠江が新田の神の祟を蒙りたる話……三五八
讃岐國山田郡なる早部友幸が本居神の御守によりて狂物の殃を免れたる話……三六一
相模國なる熊丸と稱ひし男が鶴岡の神の御德によりて心正しくなれる話……三六三
石見國なる長作が陰惡の報によりてさま〴〵くるしき目を見て死せる話……三六五
伊勢國大湊なる久田佐兵衞が敬神の德によりて伊雜宮の神恩を蒙りて眼病の治したる話……三六七

遠江國掛川の小兒が孝心の德によりて危難を免れたる上に姑の病の治したる話……三七〇
大神宮の大宮材を奪たる男等がさま〴〵の神罰を蒙りたる話……三七二
西國の人村瀬東馬がはじめ邪道を信じて神罰を蒙りたるによりて後志をあたらめたる話……三七四
伊勢國二見郷なる小兵衛といへる人の神の御守によりて狂物の害を免れたる話……三七六
駿河國富士郡なる孝子國松が神明の冥助を蒙りて母の罪をまぬかれしめたる話……三七七

編

目錄……三七九

和氣公誠忠を以て妖僧の奸謀を挫き神感を得られたる話……三八〇
江戸にすめる久次郎といへる人の妻大神宮の御守祓の德によりて邪物の害を免れたる話……三八三
常陸國なる霞が浦の茂助が妻大神宮の神德によりて大蛇の害を免れたる話……三八四
志摩國片田の里なる奥野の林松が孝心の誠より難風の害を免れて後身ゆたかに福を得たる話……三八四
伊勢國三重郡なる遠保神社の神の神異を示して盜賊の濫妨をふせぎ給へる話……三八六
伊勢山田神田領櫻の辻なる仕立屋藤兵衛が妻てい女が神助にて危難をまぬかれたる話……三八八
日本武尊肉體ながら天に復歸したまへる話……三九一
武内宿禰探湯によりて冤の罪をまぬかれたる話……三九三
筑前國宗像郡武丸村の正助が孝悌の誠を以て恐き天災をまぬかれたる話……三九四
田道が靈あらはれ夷等を嚙て讎をむくひたる話……三九九
長元四年皇大神宮荒祭宮齋内親王に憑り給へる話……三九九

神宮教院

人身三要論

……四〇三

大道本義……四一一
自敍……四一一
凡例八則……四一三

目錄

……四一三

上卷

上卷論二道之本原一……四一六
第一章　論二天神造化一……四一七
第二章　論三「諾」「柵」二尊生二成諸神萬物一……四一八
第三章　論三天祖爲二天地大主宰一……四一九
第四章　論三「豐姫」開二衣食之源一……四二〇
第五章　論二瑞珠盟約一……四二一
第六章　論三「大己貴」經二營國土一……四二三
第七章　論三「少彦名」開二常世國一……四二三
第八章　論二「大己貴」避國一……四二五
第九章　論二顯幽分界一……四二六
第十章　論三天孫降二臨下土一……四二七
第十一章　論三寶祚寶鏡二敕爲二萬世之大訓一……四二八
第十二章　論三五倫之道爲二皇國固有之教一……四二九
第十三章　論三三條教憲爲二道之要領一……四三一

卷
中卷徵二道於事物一……四三三
第一章　徵二於神典一……四三四
第二章　徵二於神敕一……四三五
第三章　徵二於神蹟一……四三六
第四章　徵二於日月星辰一……四三八
第五章　徵二於風火金水土一……四四〇
第六章　徵二於國土一……四四二
第七章　徵二於衣食一……四四四
第八章　徵二於植物一……四四五
第九章　徵二於動物一……四四六
第十章　徵二於人身一……四四八
第十一章　徵二於靈魂一……四五〇
卷
下卷論二奉レ道之方一……四五三
第一章　論二幽界之理一……四五四
第二章　論二靈魂不滅一……四五六
第三章　論二善惡報應一……四五八
第四章　論二罪穢一……四六〇
第五章　論二死候一……四六三
第六章　論二悔悟一……四六四
第七章　論レ誦二讀神典一……四六六
第八章　論二立信盡誠一……四七〇
第九章　論レ守二三條教憲一……四七二
第十章　論二自省一……四七六
第十一章　論二尚勇一……四七八
第十二章　論二解除一……四八二
第十三章　論二祭祀一……四八三
第十四章　論二祈禱一……四八六
第十五章　論二靈魂歸宿一……四八八
第十六章　論二著書本旨一……四九〇
後序……四九二
神魂說……四九三
神道摘要……四九七
神教講錄……五〇一
神教講錄一
屈伸論……五〇三
幽契……五〇四
英傑臨時顯……五〇七
徵兵……五一一
立憲政體……五一六
產物製物論……五二一
獨立論……五二四
神道名實論……五二六
神異……五三〇
對同職意見論第四……五三三
愛能……五三四
學術……五三八
敬神ノ眞擬……五四三

僥倖……五四六
篤志……五四九
戸籍……五五二
知分……五五五
敬神……五五八
是非ノ說……五六三
知足說……五六六
愼獨……五六八
知人種在言語說……五七一

神教講錄二

本末……五七四
形身……五七八
天長節……五八一
靈魂活用……五八四
說教四要論……五八七
說教問答……五九三
義論と實際は死活なる說……六〇〇
稱二神名一……六〇四
政教一致……六〇六
心氣……六一〇
布教……六一三
稜威……六一七
及レ遠從レ近……六二〇
本末內外論……六二三
諫言……六二六
公私……六二九

三體說教一之卷……六三三
神魂歸着……六三四

神教講錄三

誠心徹神……六三六
神人業有本末……六四〇
律法は情を酌量するを旨とする說……六四三
感小至大……六四九
前號ノ續……六五三
奇偶……六五六
勉強……六六一
從種成果……六六四
花實……六六六
不言教……六六八
說教主要四箇ノ目再論……六七一
富有……六七三
感小至大……六七六
食者天下之本……六七九
事實……六八二

神教講錄四

人の婦を諭す說……六八六
後悔心は遷善の種となる說……六九〇
政教……六九二
論無用學……六九五
言語說……六九九
知時……七〇二

己ノ身ニヨソヘテ云々……七〇五
恪勤……七〇九
寛大……七一一
尊皇……七一三
乾坤初分……七一六
をちこち……七一〇
大道ト制度……七一三
敬神……七一七
尊皇……七二〇
時變……七二三
眞心……七二四
假眞說……七二八
權利義務……七二九
敬神……七四二
虛實……七四五
和人心……七四七
盛衰……七五〇
衛生……七五三
神宮教院 神誡註釋……七五七
神誡口說……七六三
神宮教院 說教軌範……七七一
本教館學規……七七九
神拜之詞・禊除之詞・神誡……七九三
年中神拜略記……七九五
神宮定本 大祓詞……八〇五

圖版目次

教會大意……卷頭口繪